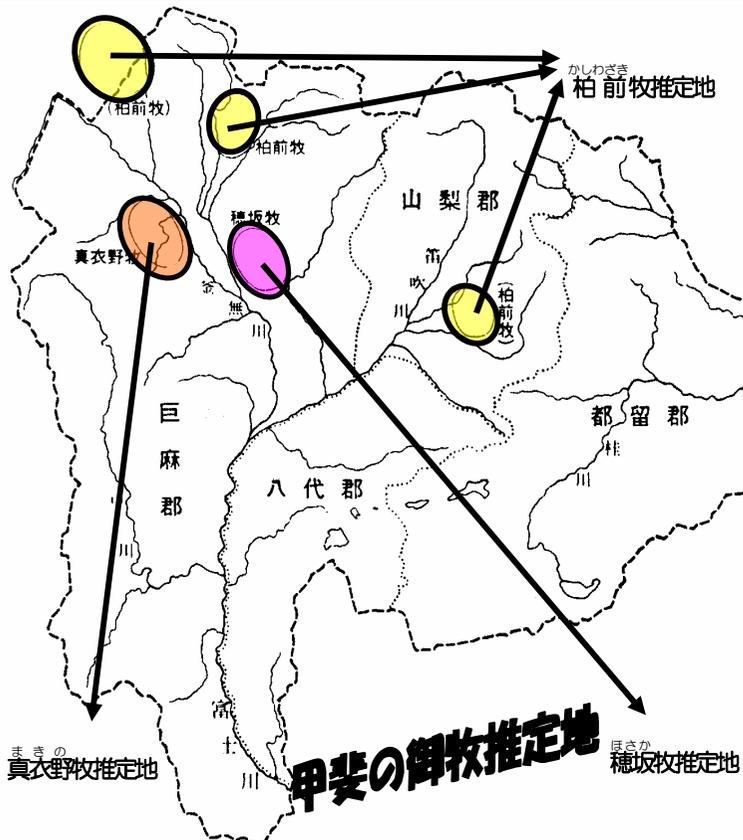


女夫石遺跡発掘調査速報

No27

目まぐるしくいろいろな発見のある発掘現場です。今回は、現場からちょっと離れて、穂坂の平安時代をちょっと垣間見て見ましょう！以前、緑釉陶器の発見についてお知らせしましたよね。破片だと思って馬鹿にしてたら地域の歴史は何も分かってこないことがちょっと分かっていただけるかも？それは担当者の勝手な思い込みと突っ込まれそうですが・・・。

さて、穂坂といえば、「牧(まき)」です。簡単に言ってしまうと、牧場ですが、単なる牧場というわけではありません。当時、中央政権にまで献上する馬を飼育していたとても有名なものなのです。その牧の一つに穂坂牧があり、所在地が現在の穂坂を中心とした地域だろうといわれているのです。



北杜市武川町 宮間田遺跡

真衣野牧推定地の宮間田遺跡から発見された墨書土器には「牧」の字がしっかりと読み取れます！だから小さな破片も大切なのだ！破片を見くびってはいけないのだ～！



沢リ：平安時代の竪穴住居跡を調査しているみたいだけど、確かこの辺は牧場があったんだよね？確か穂坂牧とかいう名前だったと思うけど・・・。

マキ：そうだね。天皇の指示で献上(けんじょう)する馬の数や献上する日の決められた御牧(みまき)の一つらしいよ。山梨県には穂坂、柏前(かしわざき)、真衣野(まきの)の3つの牧があったということが分かっているらしいよ。

沢リ：どんな馬が飼われていたのかな？

マキ：「甲斐の黒駒(かいのくろこま)」と呼ばれていて、体が黒くて足先の白い馬らしいよ。

沢リ：ところで、穂坂牧の細かい場所は分かっているのかな？名前から考えると今の穂坂町だと思うけど・・・。

マキ：多分、穂坂町を中心とした場所だと思うけど、牧場の跡は実際には発見されていないんだってさ。それに牧場を管理する人たちが住む村があってもよさそうだけど、それもどこにあるかまだ分かっていないそうだよ。

沢リ：女夫石遺跡はどうなのかな？この前、緑釉陶器っていう珍しいものもでているし、そんなのが発見されるくらいだから、何か特別な村のような気がするけど・・・。

マキ：確かにそういう考えもできるかもね。でも、もっと他にもいろいろな証拠が発見されないと簡単にはいえないと思うけどね。(つづ)



矢先稲荷神社の天井画(東京谷中) 甲斐の黒駒に騎乗する聖徳太子

甲斐の黒駒と聖徳太子は切ってもきれない関係です。聖徳太子は厩戸皇子(うまやどのおうじ)って呼ばれていたことから分かるよね。こんな伝説もあります。聖徳太子が甲斐の黒駒に乗って、飛鳥(あすか)から富士山を飛び越えて信濃(長野)を経由して3日間で飛鳥に帰ってきたというものです。こんな伝説ができるほど、甲斐の黒駒は駿馬(しゅんば)だったのでしょね！